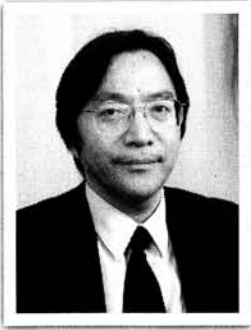


出典：日本経済新聞 2011年2月18日（金）



多摩大学大学院教授
シンクタンク・ソフィアバンク代表
日経仕事ゼミ 主宰

田坂 広志

主宰挨拶 激動の時代こそ、成長する絶好機

いまなお、世界の経済は様々な危機に直面しており、日本の経済も、いまだ不況から脱していません。こうした時代に、これから実社会へ出ようとする皆さんは、あたかも嵐の海に向かって出航する船乗りのように、心に大きな不安を抱いているのではないのでしょうか。

しかし、この実社会という海原を、いまも航海し続ける一人の人間として、皆さんに、心を込めて申し上げたい。激動の時代こそ、成長する絶好機。

そのことを、申し上げたい。

なぜなら、これからの時代は、単なる経済危機や不況の時代ではなく、この危機を通じて、従来の古い資本主義のパラダイムが壊れ、新たな資本主義へと進化していく時代。それゆえ、これからの時代には、企業も市場も社会も大きく変わり、我々一人ひとりのビジネスパーソンも、変化し、成長し、進化していかなければならないからです。

されば、これからの時代は、様々な苦労や困難を糧として、誰もが大きく成長できる時代。

そのことを、心を込めて申し上げたい。

では、その成長を遂げていくために、我々に、何が求められるのか。

「志」を抱くことです。

この危機を好機に転じ、自分が働く職場を、企業を、市場を、どう変えていくのか。そして、我々が生きるこの社会を、どう変えていくのか。その志を抱いていただきたい。世の中に溢れる、「生き残り」や「サバイバル」という寂しい言葉に流されることなく、「働き甲斐」と「生き甲斐」を求め、自身の職業に誇りと使命感を持ち、こうした逆境にこそ、明確な志を抱いていただきたい。

もし、その志を抱いて、この航海に出るならば、皆さんの旅は、かならず素晴らしい旅になります。どのような嵐も荒波も、すべてを成長の糧としながら、遙かな目的地をめざす。そうした素晴らしい旅になります。いまも、その航海を続ける一人の仲間として、互いに、その目的地で会えることを、心より願っています。